

■ 外研社·供高等学校日语专业使用

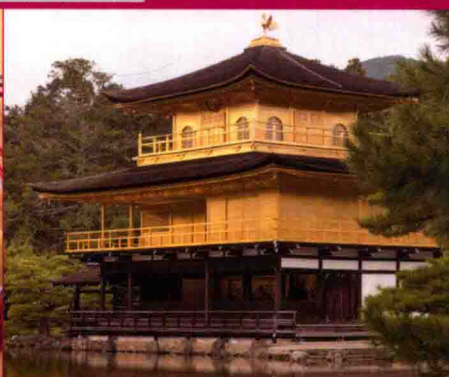
新经典 日本语

基础教程

总主编 / 刘利国 宫伟
主 审 / 修刚 陈岩 石川守(日)
 松下和幸(日) 松下佐智子(日)
主 编 / 贺静彬 尹贞姬 祁福鼎 何志勇

にほんご

第四册



外语教学与研究出版社

含MP3光盘一张

■ 外研社·供高等学校日语专业使用

新经典 日本语

基础教程

总主编 / 刘利国 宫 伟

主 审 / 修 刚 陈 岩 石川守(日)

松下和幸(日) 松下佐智子(日)

主 编 / 贺静彬 尹贞姬 祁福鼎 何志勇

副主编 / 张 瑾 孙 妍 陈 丽 张士杰

编 / 贺静彬 尹贞姬 祁福鼎 何志勇

张 瑾 孙 妍 陈 丽 张士杰

藤野谦一(日) 坂田英夫(日)

H36
207.4
にほんご

外语教学与研究出版社

北京

图书在版编目 (CIP) 数据

新经典日语基础教程. 第4册 / 贺静彬等主编; 贺静彬等编. — 北京: 外语教学与研究出版社, 2015.12

(新经典日语 / 刘利国, 宫伟主编)

ISBN 978-7-5135-6938-5

I. ①新… II. ①贺… III. ①日语-高等学校-教材 IV. ①H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2015) 第 310971 号

出版人 蔡剑峰
项目策划 彭冬林 杜红坡
责任编辑 刘宜欣
执行编辑 郭铭超
装帧设计 新佳禾书装
出版发行 外语教学与研究出版社
社 址 北京市西三环北路 19 号 (100089)
网 址 <http://www.fltrp.com>
印 刷 北京市大天乐投资管理有限公司
开 本 787×1092 1/16
印 张 15
版 次 2016 年 1 月第 1 版 2016 年 1 月第 1 次印刷
书 号 ISBN 978-7-5135-6938-5
定 价 48.00 元 (含 MP3 光盘一张)

购书咨询: (010) 88819926 电子邮箱: club@fltrp.com

外研书店: <https://waiyants.tmall.com>

凡印刷、装订质量问题, 请联系我社印制部

联系电话: (010) 61207896 电子邮箱: zhijian@fltrp.com

凡侵权、盗版书籍线索, 请联系我社法律事务部

举报电话: (010) 88817519 电子邮箱: banquan@fltrp.com

法律顾问: 立方律师事务所 刘旭东律师

中咨律师事务所 殷 斌律师

物料号: 269380001

前言

近年来,我国高等院校外语专业在人才培养模式、课程设置、教学内容、教学方法等方面都发生了很大的变化。为了适应新的教学需求,在对全国不同类型院校日语本科教学现状进行调研的基础上,大连外国语大学和外语教学与研究出版社共同组织中日两国专家和一线教师编写了这套《新经典日本语》本科系列教材。

《新经典日本语 基础教程》是以中国高等院校零起点的日语专业本科学生为对象,以培养学生听、说、读、写综合语言交际能力为目标的教材。本教材以《高等院校日语专业基础阶段教学大纲》为依据,参照日本国际交流基金《日语教育标准2010》对相应学习阶段的要求编写而成。基础教程共分四册,第一册含“发音”和14课,第二、三、四册各有16课。各院校可以按照每周一课(8课时)的进度安排教学,教师也可以根据学生的接受程度灵活掌握。

本系列教材在学习和吸收国外第二语言教学的先进理念和方法的基础上,借鉴国内外已经出版的优秀教材的经验,结合中国日语本科教学的现状和大纲要求编写而成。在编写设计中,主要体现了以下几个特点:

1. 以学生为中心,激发自主学习动力和语言探究潜能。本教材在课堂组织中强调学生的参与度。教师在课堂上的角色不再是单纯的课文讲授者和知识传播者,而是学习的引导者、语言交际任务的设计者。教师的任务主要体现在如何调动学生学习的积极性,如何引导学生有效参与课堂活动以及进行语言探究,从而激活他们内在的语言知识系统。以学生为中心,并不是要放弃教师在课堂中的主导地位,而是要让教师成为优秀的课堂引导者,最大限度地调动每一个学生参与到课堂中,激发他们自主学习的动力和探究一门外来语言的渴望。有趣、活泼的课堂教学才是高效的。为此,作为基础阶段教材,本教材并不过分强调语言知识,特别是语法理论知识翔实讲解,而是以帮助学生发现和总结语言规律、举一反三、灵活运用为目标。

2. 以输出为驱动,培养综合应用能力。语言是交际的工具,学习语言的根本目的是为了和他人有效沟通。本教材强调输入与输出并举,以输出为驱动,培养学生在真实语境下完成语言交际任务的能力。具体来说,教材在注重听力与阅读理解等语言输入能力的同时,突出学生口语和书面表达能力的训练,即语言的输出,并为此提供语言输出表达的各种场景和材料。本教材在以主题(话题)——情境——功能为主线的结构设计中,引入任务教学法的理念和方法,设计多样化的真实语境交际任务。学生在完成任务的同时培养了对语言的兴趣、成就感和

听说读写综合应用的能力。

3. 融文化于语言学习中，培养跨文化思辨能力。语言是文化的载体，不了解目标语言国的文化是没有办法真正学好这门语言的。本教材在编写中以跨文化交际理论为指导，强调将跨文化交际与文化冲突融入到语言学习之中。为了实现这一目标，只是在每一课后设置一些有关所在国风土人情的“小知识”是远远不够的，而是要将文化的精髓、民族的文化特质融入到语言交际中。为此，本教材在选材设计上强调内容的深度（有意义）和真实性，要让学习者从语言学习中感受、了解到另一文化的特征。通过语言学习，不仅获得了交际技能，而且了解到不同民族间的文化差异在语言和思维上的真实表现，从而培养学生在跨文化交际中的思辨能力。

4. 立体化教学，提供更为宽广的交际平台。在新的数字化环境下，外语学习途径变得更加丰富、多样、便捷。特别是网络技术和移动平台的发展，打破了传统的时间和空间限制，为学习者提供了更为宽广的交际平台。本套教材体系除包含传统的纸质教科书、录音光盘以及助学课件外，还有针对教学需求开发的语言测试系统和网络化学习平台，为学习者提供诊断式学习方案，及时帮助学习者检测自己的水平和能力，发现具体不足之处，并为每一个学习者提供个性化的指导意见和学习课程。

以上是本教材的基本理念和设计特点。我们在编写过程中虽然借鉴和吸收了国内外优秀教材的经验并提出自己的创新理念，但囿于我们的学识和经验，在具体教材设计中还存在着诸多不足，在新观念、新方法的应用中难免存在鹦鹉学舌之陋。我们诚挚地希望专家和使用单位不吝赐教，提出批评和建议，使我们能不断修订，把本教材编写成一部学习者叫好的经典教材。

《新经典日本语》编写组

2014年8月26日

使用说明

编写原则

本教材在设计和编写上贯彻《大学日语课程教学要求》和《日语专业四/八级考试大纲》中对大学日语教学性质、教学目标、教学模式、教学评估、教学管理等各方面所做的界定和描述,并在此基础上,结合外语教学理论与实际教学需要,进行教学理念和教学模式的探索与创新,开拓大学日语教学的新模式。本教材由学习目标、阅读、应用会话、语言项目学习、综合技能训练、文化专栏六大模块构成。这六大模块涵盖了语言学习中的听、说、读、写、译五大要素,每个模块均配有相应的练习,即学即练,形式多样,图文并茂。在学完日语基础教材一、二册的基础上,通过三、四册的学习,学生应该满足《大学日语课程教学要求》中的较高要求并达到《日语专业四级考试大纲》中所要求的日语水平。

教材构成

一、关于主教材

1. 4册内容综合考虑,既强化学生语言能力的学习,又涉及小说、散文、演讲、议论文等各类文章,不但凸显了日本文化,还重视培养学生的人文素养。
2. 阅读课文的选取既考虑到学习者的学习特点,也考虑到教师的教学需要,做到“趣味性、知识性、实用性、科学性”的统一。
3. 应用会话部分重视从实际生活出发创设情景,与生活贴近,激发学生的兴趣。
4. 主教材以多样的训练模式对学习者的进行综合技能训练。

二、关于练习册

1. 本套教材练习设计突出趣味性、综合性、启发性,侧重培养学生勤于思考、善于归纳推理的综合素质。练习内容强调真实性、丰富性,努力把日语交际真实的一面介绍给学习者。

2. 练习册是对各个单元话题的集中强化训练,使学生实现学一个单元掌握一个单元的目标。

3. 练习题设计在总量上提供了弹性空间,教师可以根据学生和教学的实际情况灵活运用。

4. 注重与国内日语水平考试以及国际日语能力测试的衔接,进行两种考试题型专项训练,以提高学生对国内外日语能力考试题型的熟悉程度和答题能力,同时达到复现部分知识点的目的。

三、每课构成

本教材每课由以下六个部分组成:

1. **学习目标:**提示学生通过本次课程的学习应达到的基本程度,包括思考能力、认知能力、对不同文化的理解能力及语言表达能力等。

2. **阅读:**该部分内容为本教材的核心内容,话题题材包含衣食住行、语言、文化、地理、历史、自然、生物、娱乐、教育,文章体裁涉及记叙文、说明文、议论文等。

3. **应用会话:**每篇会话紧扣正文话题,使不同的会话场景与口语功能相结合,以期达到交际之最终目的。

4. **语言项目学习:**该内容包含词汇和语法两部分。第一部分结合人物形象在“関連用語”部分设计与人物性格相关的拓展词汇。第二部分是语法学习。主要归纳了与本文以及应用会话中出现的书面语法和口语语法知识。书面语法在“文型”一栏,口语语法在“注釈”一栏分别进行了讲解。主要有口语表达功能释义和会话场景例示、名词解释以及提示特殊语法点等。

5. **综合技能训练:**该内容包括“内容確認”和“練習問題”两个部分。

① “内容確認”部分有对正文、会话文的检测习题,也有熟悉内容,即把会话文变成陈述的语体并书写下来。目的是将输入(习得)的内容转换成输出(运用)的内容,真正达到活学活用。

② “練習問題”部分

A部分-----交际性练习(模拟场景会话练习)

B部分-----复用性练习(根据所学内容进行概括性复述练习或小作文练习)

此外,在练习的最后部分附有补充词汇及表达方式的列表,为学生提供与本次话题相关的表达方式,但该部分不作为必学知识。

以上环节主要目的是拓展学生的思维和知识面,提高学生的归纳、总结、概括、复述、陈

述、书写等综合能力。

练习B部分教师可结合课时及学生的学习情况，灵活使用，既可作为课前学生发表的规定内容或学生之间课外学习活动的素材，也可作为师生课堂互动的实践环节设计到教学中。

6. 文化专栏：主要介绍与本课内容密切相关的社会文化知识。

课堂参考案例：

下面以第四册第2课『コロンブスの卵』为例，对第四册教材的具体单元结构进行说明。

『コロンブスの卵』是一篇散文，散文是作者对生活的感悟或至深的生活体验。大二学生阅读日文散文时，要透过“形”抓住“神”，体会作者所要表达的思想情感，抓住文章的结构和线索，欣赏优美的语言。

『コロンブスの卵』文章形式上的特点为：（1）以叙述为主，把个人抒情、议论熔为一炉；（2）从细处落笔，小中见大；（3）从侧面暗示，发挥读者的想象力；（4）行文自由，结构灵活。

“学习目标” 部分首先向学生提出了散文作品的三个学习目标；其后附插图，形象生动。插图的直观视觉信息不仅能激发学生的学习兴趣，更能加深对课文的理解。

“正文” 也就是“阅读”部分的文章，借助古今典故来说理，妙趣横生且富于感情。整篇文章的材料看似安排得很“散”，但文章采用从细处落笔，小中见大的表现手法，对全文进行了精心的布局，其“神”始终不散。

若想抓住日文散文的“神”，可以从抓中心句、关键句入手。它们是理解散文主旨的关键。这些句子多由作者直接点明，常分布在文章的开头、结尾和关联过渡处，形式上多为议论抒情句。它是作者对所描述内容的直接评价，是散文的“文眼”。那么，这篇散文的“神”在何处呢？主要有两处，一处为文章的关键过渡处，另一处为文章的结尾处。分别为：

「暮らしの中の思いがけない小さな発見ということが、好きなたちなのである。」

「言われてみれば何でもないことだが、初めに考えついた人はやっぱりすばらしい。これもコロンブスの卵であろう。」

“应用会话” 的主要目的是提高学习者的交际能力和语言运用能力。“应用会话”的设置不但与主课文内容密切相关，而且内容鲜活、场景丰富，通过地道的会话演绎日常生活中经常出现的情景，可以让学习者领会如何在各种不同的场景中表达自己想说的内容。本单元“应用会话”部分谈论的主题为发现樱花的魅力。

“语言学习” 分词汇和语法两大部分。词汇学习除了本单元的新词汇以外还设计了

“関連用語”即拓展词汇。语法学习部分主要归纳总结了课文和应用会话当中出现的书面语法以及口语语法。本书中书面语法在“文型”一栏、口语语法在“注釈”一栏分别进行了讲解。

“综合技能训练”部分共设计了两大部分。即交际性练习、复用性练习。

具体分布如下：

1. “内容確認”部分-----复用性练习

共设计了两道问题。第一个问题是在阅读本文的基础上对文章的细节作出正误判断；第二个问题是总结概括应用会话的大意。

2. “練習問題”部分

A部分-----交际性练习（模拟场景会话练习）

B部分-----复用性练习（根据所学内容进行概括性复述练习或小作文练习）

“文化专栏”部分选取与本课内容密切相关的知识点进行了介绍。这部分内容也是课文内容的扩展和延伸。第2课的文化专栏介绍的是日本的「かわいい文化」。

教学计划

每课分为3或4课时进行授课（可根据学校及学生的具体情况而定）。

3课时

第1课时：“导入” & “阅读理解”

第2课时：“应用会话” & “语言学习”

第3课时：“综合技能训练”

4课时

第1课时：“导入” & “阅读理解”

第2课时：“阅读理解” & “语言学习”

第3课时：“应用会话” & “综合技能训练”

第4课时：“综合技能训练”

本书中的符号含义如下：

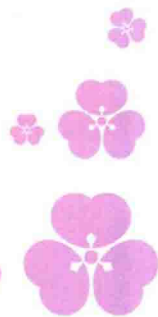
符号	日文含义	中文含义
N	名詞	名词
V	動詞	动词
R	動詞連用形	动词连用形
A	形容詞	形容词
AN	形容動詞	形容动词
/	または	或者
[]	品詞	词类
()	説明	解释

目 录

/ 課 /

/ ジャンル /

- | | | |
|-----|----------------|-----|
| 001 | 第1課 途中下車 | 小説 |
| 013 | 第2課 コロンブスの卵 | 随筆 |
| 027 | 第3課 ほんとうの顔 | 随筆 |
| 039 | 第4課 沈黙の世界 | 論説文 |
| 053 | 第5課 メディア環境の変化 | 論説文 |
| 069 | 第6課 「なあーんだ」の心理 | 論説文 |
| 085 | 第7課 一枚の葉 | 随筆 |
| 097 | 第8課 鳥のいる異風景 | 論説文 |



/ 交際 /

/ 関連用語 /

/ コラム /

京大合格

ほめるときのことば・表現

日本人のジェスチャー

桜の魅力

体の部位を表すことば

カワイイニッポン

お色直し

自分の考えを理由と一緒に言うときに使う表現

たいあんきちじつ
大安吉日

日本の電車について

乗車の時に使われることば

エスカレーターの左右

SNS疲れ

論文を書くときのことば・表現

子どもを取り巻く^{とま}IT環境の変化

地震

地震の報道に関することば・表現

危ない口コミ

生命の大切さ

季節のイメージや風物を説明するときのことば・表現

「日本画」とは？

環境保全

自然・環境について話すときのことば・表現

ホトトギスと武将の性格？

109

第9課 夢を建てる
人々

随筆

121

第10課 スペシャル
ストになり
たまえ

論説文

135

第11課 猫ばばと死
刑

論説文

151

第12課 マイナスの
なかにプ
ラスがある

随筆

165

第13課 分ける・押さ
える——手の
機能

説明文

177

第14課 宇宙人への
メッセージ

説明文

189

第15課 迷う犬

論説文

201

第16課 この小さな
地球の上で

随筆

216

附録1 接続の表示法

217

附録2 文型

/ 交際 /

/ 関連語彙 /

/ コラム /

将来の職業

夢・理想に関することば・表現

日本の職人^{しよくにん}

面接

自分の特徴や面接するときのことば・表現

留学生の就職状況

大阪府警の猫ばば事件

警察関連のことば・表現

猫のつく言葉

マイナスとプラス

マイナ斯的・プラス的な表現・ことば

青春^{せいしゆん}の詩^し

手と脳

手と脳の機能に関することば・表現

頭がいい人と頭がよさ「げ」な人との区別

将来の夢

宇宙・地球外文明に関することば・表現

冥王星^{めいおうせい}の惑星^{わくせい}身分^{みぶん}をめぐる^{げきろん}激論

遅刻の理由

位置・交通を表すことば・表現

世界一の梅田地下帝国

省エネの取り組み

環境汚染と自然災害を表わすことば・表現

ナスカ（ペルー）

220 附録3 関連用語

221 附録4 コラム

主な文型

1. 「～ことで」
2. 「まんざら～ない」
3. 「～かのように」

第 1 課

途中下車

学習目標

- 1 小説を自分に引きつけて読む姿勢を養い、登場人物の性格・心理・行動を的確に読み取る。「途中下車」が人生にどのような意味をもたらすかを考える。
- 2 ほめる表現とほめられた時の謙遜した言い回しを身につける。
- 3



本文

途中下車

宮本輝（みやもと てる）

いまから十三年前、私は友人と二人して、ある私立大学を受験するため上京した。というより、上京するため確かに東京行きの列車に乗ったのである。世の受験生と同様、私たちもまた幾分の不安と心細さを抱いて、窓外の景色を眺めていた。そんな気持ちを和めようとして、自然に口数だけは多くなっていた。ところが、京都から乗り込んできたひとりの女子高生が私たちの隣の席に座ったことで様相は一変した。めったにお目にかかれないほど美人だったからである。私も友人も何となく態度が落ち着かなくなり、口数も減っていた。友人が意を決してその女子高生に話しかけたのは静岡を過ぎてからであった。彼女は京都の大学を受験して、伊豆大仁（おおひと）に帰る途中だった。友人はそっと私に耳打ちした。

「伊豆の踊り子やなあ。」

なぜ踊り子なのか判らなかったが、私は、うんうんとうなずき返した。彼女もだんだんうちとけてきて、三人が無事に受験に成功したら、再びどこかで逢ってお祝いをしようなどと言い出した。そして私たちの心を散々乱したまま、嫣然たる微笑を残して三島で降りてしまった。

「俺、もう東京の大学なんかやめにして、京都の大学を受けようかな…」とまんざら冗談でもなさそうに友人は呟いた。

「俺もさっきから考えてたんやけど、ことしは受験しても多分落ちると思うわ。一年浪人して、じっくり実力をつけて、来年にそなえたほうが賢い。」

私もまた本気でそう言った。話はあっさり決まった。私たちは親からもらった東京での宿泊費を伊豆の旅にまわすことにして、そのまま熱海でおりてしまったのだった。何とも親不孝な息子であった。そしてこれが私の人生における最初の途中下車であった。私たちはいい気分で伊豆の温泉につかりながら、大仁のどこかにいるであろう美しい女子高生を思った。住所も電話番号も教えてもらっていたが、私たちはその紙きれを見つめるだけで何もしなかった。三日後、いかにも試験を受けてきたかのような顔をして家に帰った。

それから半年たった頃、友人の父が死んだ。彼は家業の運送店を継ぐため

に、進学を断念した。

私はといえば、受験勉強などそっちのけで、小説ばかり読みあさっていた。だが、二人の心の中から、列車で知り合った女子高生の面影は消えなかった。私たちは逢うとその話ばかりしていた。彼女が京都の大学に受かったのかどうか気になって仕方がなかった。ある日、ジャンケンで負けたほうが、彼女の実家に電話をかけようということになった。私が負けて、ダイヤルを回すと、ちょうど何かの用事で京都から帰って来ていた彼女が出てきた。無事試験に合格し、丸太町の親類の家に下宿しているのだという。

「ところで、あなた、二人のうちのどっち？」と彼女が訊いたので、私はほんの冗談のつもりで、友人のほうの名を言った。しばらく考えてから彼女はこう囁いた。

「逢うのなら、あなたと二人だけで逢いたいな。」

私は黙りこくったまま、じっと電話をにぎりしめていた。そしてそのまま電話を切った。もっとうまい方法があったはずなのに、十八歳の私は打ちひしがれて、ほかにどうしていいのか判らなかったのである。

「なあ、どうやった？どない言うと思った？」

友人は目を輝かせて何度も訊いた。私は嘘をついた。彼女は受験に失敗して勤めに出ている、もう電話などしないでほしい、そう言ってガチャンと電話を切られたと説明した。

「ふうん、見事にふられたなあ。」友人はペロリと舌を出して笑った。

このことは、いつまでも私の中から消えなかった。生まれて初めての失恋が、私の心に傷を残したというのではない。私は自分の付いてきた数多くの嘘の中で、この嘘だけを決して自分でも許すことができなかった。私がいまそれを文章にできるのは、にっくき恋敵であるその友が、交通事故で死んでからもう十年もたったからである。

『二十歳の火影』より引用